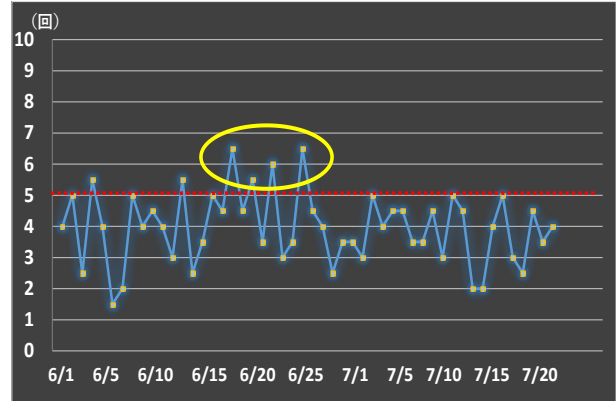


3 オーチャードグラス導入による収穫適期の分散

根室管内では、チモシー主体の草地管理が大半を占めます。チモシーは収量性、耐寒性があり、根室地域に適した草種です。

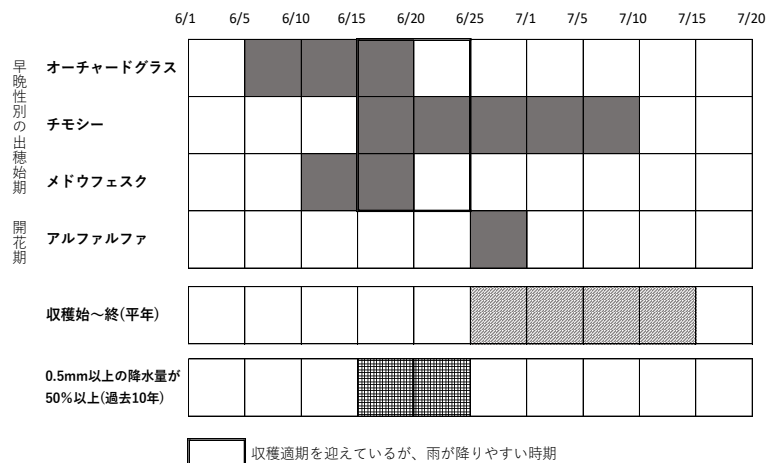
チモシーは出穂始～出穂期で収穫すると栄養収量が高く、収穫適期となります。当管内のチモシーの刈り取り適期は早晚性を考慮すると、6月中旬から下旬となります。

近年、温暖化などの影響と考えられますが、6月中下旬に降雨が多い傾向が見て取れます（図VI-5）。特に令和4年はそれが顕著で、1番草の収穫は長雨の影響で7月にずれ込みました。それらの気象の変化は、今後も刈り遅れのリスクを高める可能性があります。



図VI-5 0.5mm/日以上降水量があった回数
2013~2022年の別海町+中標津町
(気象庁HPより作成)

一方で6月前半は、比較的天候が安定している傾向にあります。その時期に収穫適期を迎える草種として、オーチャードグラスがあげられます。オーチャードグラスの早晚性を考慮した収穫適期幅は、図VI-6のとおりです。天候不順によるチモシーの収穫遅れのリスクを分散させるため、オーチャードグラスを一部取り入れることは今後の選択肢の一つです。



図VI-6 草種別の生育と収穫時期

オーチャードグラスの導入時の留意点は、冬枯れにやや弱いため、耐寒性の強い品種を選ぶ、収量を確保するためや株化することを避けるため3回刈る必要がある、刈り遅れで栄養価が低下しやすいいため、適期に刈り取ることなどがあげられます。

導入時に一番のネックとなる3回刈りについて、収穫コストや労働力の増加をシミュレーションしましたので参考にしてください（図VI-7）。

- ① TY2回刈り（農業者慣行）とOG3回刈りで収量同等
- ② 既存のTY面積の内、25%をOGに転換した場合
(TY:80ha→TY:60ha+OG:20ha)の試算
 - TDN収量は103%
 - TDN収量増加分は金額換算19,600円/ha
 - 収穫費用は5,300円/ha増加
 - 差引収支14,300円/haの増収と試算

※北海道に於ける早刈り、短間隔刈りで収穫したオーチャードグラス(パレニアルライグラス混播草地由来サイレージの飼料特性(2019年 北農研 矢島他より))

図VI-7 オーチャードグラス導入時の収支試算